

企画展

# 北の古代世界

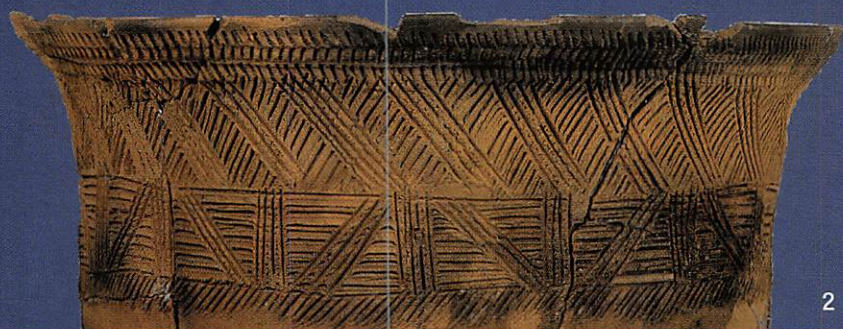
## 擦文文化の頃



1

2002.2.5(火)⇒

3.22(金)



2

開館時間.. 9時30分～16時30分  
休館日.. 月曜日(2/11は開館)、  
2/12(火)  
企画展観覧料.. 無料

### 関連事業

講座 北の古代世界－擦文文化の頃  
日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分  
会場 当館講堂  
講師 瀬川拓郎氏 (旭川市博物館)  
中田裕香氏 ((財)北海道埋蔵文化財センター)



3

### 協力

旭川市博物館・(財)北海道埋蔵文化財センター  
常呂町教育委員会・女満別町教育委員会

お問い合わせ 〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL0152-45-3888 FAX0152-45-3889

e-mail hoppohm@ohotuku26.or.jp

http://www.ohotuku26.or.jp/hoppohm/



4



北海道立北方民族博物館  
Hokkaido Museum of Northern Peoples



# 北の古代世界 擦文文化の頃

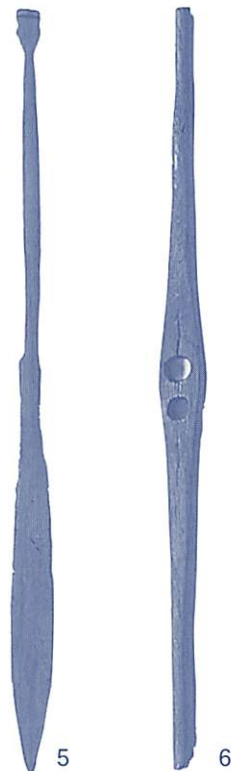


## 「<sup>さつもん</sup>擦文」の由来

擦文文化は7世紀から12・13世紀にかけて、北海道を中心に展開した文化です。擦文土器は「木片」によって模様がつけられています。この「木片の刷毛目のあと＝<sup>さつもん</sup>擦痕」から、擦文文化と呼ばれるようになります。

## 生業

擦文文化の人びとは、北海道から東北地方北部までの内陸部や沿岸部など、さまざまな場所で生活していました。これは、ほぼ同じ時期にオホーツク海沿岸で海棲生物の獲得を中心に生活していたオホーツク文化の人びとと対照的です。オホーツク文化の人びとは、沿岸部から離れることがないのに対し、擦文文化の人びとは狩猟、漁撈、栽培などの技術を持っていたため、さまざまな所で生活することができたようです。



## 交易

これらの生活技術は、本州との交易にも関係します。擦文文化では鉄製利器が数多く使用されていました。これらの鉄製品は本州産のものが多く、擦文文化の人びとは、狩猟、漁撈で得た毛皮類やサケなどを鉄製品と交換していたのでしょうか。また、この過程で、栽培などの技術や、壁に作りつけのカマドをもつ住居の構造などが、本州より伝わってきたと考えられます。



## 擦文文化からアイヌ文化へ

擦文文化の遺跡は、遺物が少ないことで有名です。しかしごくたまに出土する木製品のなかには、後のアイヌ文化で使用されるものと非常によく似た製品があります。これらの製品を比較することで、擦文文化からアイヌ文化へと変化していく過程をみることができます。

本企画展では、縄文文化から移り変わり、本州文化やオホーツク文化と接触しながら、アイヌ文化へとつながってゆく擦文文化について紹介します。

写真 1 飾り金具(美々8遺跡低湿部) 2 擦文土器(美岬4遺跡) 3 回転式離頭銛中柄片(ユカンボシC15遺跡) 4 魚叩き棒(ユカンボシC15遺跡) 5 早稲(美々8遺跡低湿部) 6 車椀(美々8遺跡低湿部) 7 擦文土器(美岬4遺跡) 8 舟形容器(美々8遺跡低湿部)  
※ 2,7は当館所蔵、それ以外は(財)北海道埋蔵文化財センター所蔵

## 企画展開催中の催し

- 2月9日(土)10:00-11:30 講座「映像で見る北方の子育てと遊び」  
講師 当館学芸員
- 2月23日(土)14:00-15:30 講座「擦文文化とオホーツク文化」  
講師 当館学芸員



 **北海道立北方民族博物館**  
Hokkaido Museum of Northern Peoples